

平成 30 年度 社会就労センターライン工房 事業報告

1 事業計画に基づく取り組み状況

(1) 就労継続支援 B 型事業・生活介護事業

① 工賃支給額の向上

計画要旨

利用者への工賃額について、ライン工房では永らく全員について 1 日 500 円の支給を継続してきた。菓子等の売上収入や利益は年度によって多寡があり、計算上実際には 500 円を払えない年もあったが、報酬を切り崩す中で支給してきた経緯がある（下記表中、差額（作業利益）がマイナスの年度）。

しかしながら平成 29 年度においてはこれまでにない作業利益が生まれ、最終的な作業利益額を確認した上であるが、500 円の工賃に加えてボーナスも支給できる見込みとなった。この「500 円 + α 」の支給額を一時的なもので終わらせることなく、30 年度以降についても、29 年度の好調さを継続するとともに、より以上の + α の額を支給し工賃額の向上へ繋がるよう取り組みを進めたい。

取組結果

30 年度についてもパン、菓子類、企業からの受注作業などの総売上は 23,513,071 円となり、29 年度を若干ながら上回りました。

【参考】過去 6 年間の作業利益の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
就労支援事業収益（売上）	20,043,593	21,987,476	22,163,099	20,176,108	23,414,165	23,513,071
就労支援事業費用（経費）	20,868,906	22,650,651	21,969,747	21,205,595	22,281,599	24,907,821
差額（作業利益）(A)	- 825,313	- 663,175	193,352	- 1,029,487	1,132,566	- 1,394,750
経費のうち、 年度内支給ボーナス額 (B) ※ 前年度余剰分				0	0	1,134,000
前年度余剰分としての ボーナス支給を除いた差額 (C : A + B)				- 1,029,487	1,132,566	- 260,750
当該年度の余剰として、 翌年度に支給したボーナス額 (D)				0	1,134,000	
当該年度の実質的な差額 (C - D)				- 1,029,487	- 1,434	

しかしながら経費も嵩んでおり、29 年度分の余剰として 30 年度に支給した「ボーナス」分を考慮しても、26 万円ほどの“赤字”となっています。

なお、この「ボーナス」は、29 年度の作業利益分として、30 年 12 月に全利用者に対し、一人あたり平均 16,000 円（7,200～21,600 円）を支給したものです。

令和元年度においては、製造原価の抑制に努めるとともに、パンや菓子類について販売価格の適正化もおこない、月々の工賃に加えて「ボーナス」も支給できるよう取り組みを進めていくこととしています。

② 支援体制の再構築（従来より手厚い支援体制の構築）

計画要旨

現在、就労 B 型を定員 42 人、生活介護は定員 10 人としているが、生活介護利用者の障害支援区分は総体的に上がっており、少しずつではあるが着実に重度化が進んでいる。また、就労 B 型の利用者においても区分 5 及び区分 6 となった方が計 9 人おられる。これらから、現行の支援員数では支援、介助等に不足を感じるようになってきている。この状況を踏まえた中で、各事業について定員の変更をおこなうとともに、就労 B 型の利用者の一部（支援区分が高い方）を人員（支援員）配置基準の手厚い生活介護に移籍いただき、そのことにより全体の支援員数を増やしていきたい。それにより、一人ひとりへの支援がより行き届くようにするとともに、支援員等一人ひとりが抱える仕事の量を軽減にも繋げたい。

取組結果

平成 31 年 4 月からの定員変更を前提に、30 年度内より支援員の増員に取り組んできました。就労 B 型と生活介護の両事業において、30 年 4 月は常勤支援員 10 人、非常勤支援員 6 人だったものを、31 年 4 月時点では常勤 11 人、非常勤 7 人としています。

しかしながら、数年前よりはっきりと見え始めた求人難は年を追うごとにその厳しさを増してきており、求人への反応が目に見えて無くなりつつあります。計画では昨年度中に更に増員することを目論んでいましたが、結局それを果たすことができないままに新年度を迎えることとなりました。現在も引き続き求人活動をおこなっているところです。

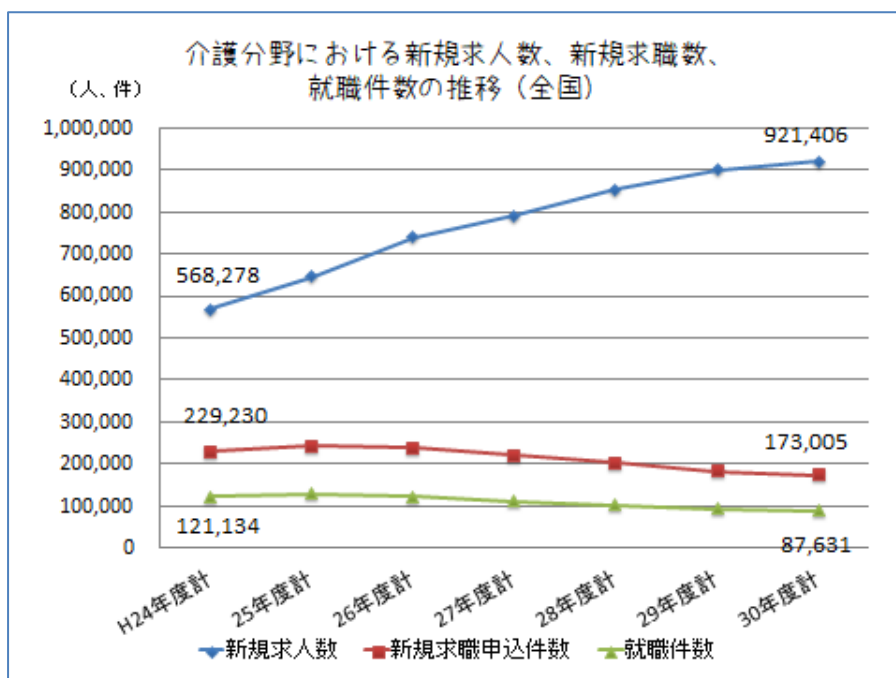
なお、この求人難は一過性のものと見込むことはできず、今後益々厳しくなっていくと予想される中において、採用基準（合格ライン）の見直しや雇用条件や待遇面等での更なる改善・向上などが迫られることも予想されます。

いずれにしてもこれまでのやり方や考え方を大事に守り続けるだけでは最早通らない時代に入っていることから、運営面においても“これからも大事にするのは何か”“何は無くしても構わないのか”といった価値判断に基づいた中で業務や支援の中味にメリハリをつけていくが必要になってくると思われます。

時代の変化に正面から向き合った中で、どのような支援の、また運営の“形”がこれから必要なのか、その

ことをしっかりと模索していきたいと思います。

【参考】介護分野の職業紹介状況



（2）就労移行支援事業・就労定着支援事業

① 利用者の確保と就職・定着率の維持向上

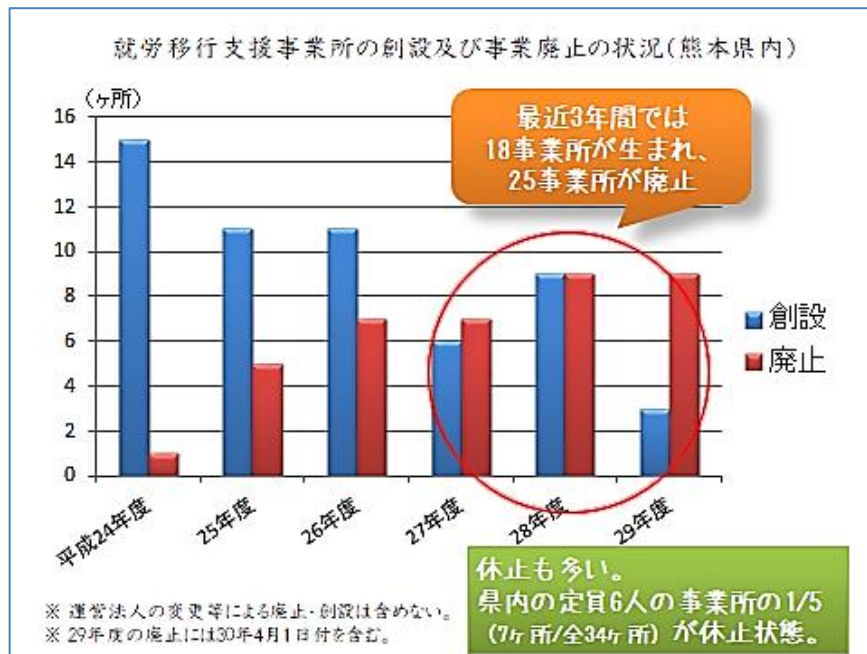
計画要旨

平成29年度においては、1日平均利用者数は3.3人と、26～28年度の利用者数に比べると微増したものの低い数字にとどまっており、事業としての収支を考えると依然として厳しい状況にある。30年度については、就職・定着実績を積み重ねることなどを通して1日平均利用者数を4人以上とすることを目標とする。

取組結果

30年度の1日平均利用者数は2.2人と低い数値にとどまり、目標には大きく届きませんでした。その理由としては、新規利用者が年間を通して2人のみであったことによります。

就労移行支援の利用者は全国平均としてはここ数年横這いの状態ですが、熊本県を含め多くの県（九州沖縄8県中6県）では、数年前の5～8割程度まで利用者数が減ってきています。熊本県の就労移行支援事業所における定員充足率も平均6割前後で推移しているとともに、ここ数年は事業廃止された事業所も少なくない状況です。



他の就労系事業（就労 A 型・B 型）に比べ、就労移行支援事業を取り巻く状況は厳しくなっていますが、利用ニーズが全く失われた訳ではありませんので、利用者の確保に向けて引き続き丹念に開拓をおこなっていきます。

なお、平成 31 年 3 月から 4 月に掛けて新規の利用開始が重なり、現時点（5 月）では 4 人の利用となっています。

併せて、30 年度は 4 人の方が修了し、うち 3 人が一般就労に結びつきました。残る 1 人は就職希望が薄れ、ライン工房の就労 B 型に移っています。過去 3 年間を見ても修了 11 人中 9 人が一般就労に結びついており、全国平均（一般就労率 5 割弱）を大きく上回る結果を残しています。

また、平成 30 年度より就労移行支援の報酬の算定方法が変更となり、各事業所の「就労・定着（就職し、6 ヶ月以上その職場に定着）実績」により支給される報酬額が上下することとなりました。この額の算定上においては、「就労・定着者数」を事業所の「定員数」で除して得た数値が用いられることとなっています。このこともあり、利用者数は今後とも定員（8 人）に満たないと見込まれることから、平成 31 年 4 月より本事業の定員数は 6 人（多機能型で認められる最低定員）に減じたところです。

② 就労定着支援事業の立ち上げと支援方法の確立

計画要旨

平成 30 年度において、新サービスとして就労定着支援事業が新たに創設される。一方、この事業の創設に伴い、現行の就労定着支援体制加算は廃止となる。この加算額は 29 年度で約 150 万円となっており、その額に相応した報酬が就労定着支援事業により支給される仕組みとなっている。

また、新事業では職場定着への支援について、これまで以上に密におこなうことが義務づけられており、その意味でも当法人としても就労定着支援事業の立ち上げをおこない、報酬面でのリカバーとともにこれまで以上の就職後の支援の充実を図っていきたい。

取組結果

諸準備を整えたのち、平成 30 年 10 月に事業を立ち上げ、令和元年 5 月現在で 9 人に対して支援をおこなっています。支援期間は就職後 6 ヶ月経過時点～3 年 6 ヶ月到達時点までとなりますが、その後も必要に応じて関わり続けることになります（就職後 6 ヶ月間は送り出した就労移行支援事業にて定着支援義務あり）。月 1 回就職先を訪問して支援をおこなえば報酬が支給される仕組みですが、支援対象者によっては更に頻回の支援を必要としており、月に何回かの職場訪問や本人との面談などをおこない、危機介入等をおこなっています。

就職するだけでなく、働き始めた職場への定着が為されて初めて一般就労に意味を持つこととなりますので、2 年目となる令和元年度においてもこの定着支援については力を注いでまいります。

2 各事業の稼働状況

	稼働日数	1 日平均利用者数／定員数
就労継続支援 B 型事業	265 日	40.9 人／42 人
生活介護事業		11.5 人／10 人
就労移行支援事業		2.2 人／8 人

3 行事等実施状況

4 月 花見（道の駅旭志）

5 月 情報誌「街の風」第 48 号発行

6 月 みらいんぐスポーツフェスティバル

8 月 夢づくり 2018 夏祭り in としま

10 月 研修旅行（東京 2 泊 3 日・12 人）

11 月 研修旅行（大分 1 泊 2 日・18 人）

11 月 研修旅行（東京 2 泊 3 日・11 人）

12 月 餅つき

12 月 忘年会

1 月 情報誌「街の風」第 49 号発行

2 月 健康診断